

「百聞は一見にしかず」その後

「百聞は一見にしかず」は良く耳にする言葉です。最近その続きがあることを知りました。「百見は一考にしかず」「百考は一行にしかず」そして、「百行は一効にしかず」と効果を上げることが大切だと。そして「百効は一幸にしかず」と幸せになることが成果を上げることよりも大切だと説いています。聞いて、見て、考えるまではできます。無駄に考え悩むより、勇気を持って行動しようとも思えます。成果を上げるとなると容易ではありませんが、どんなに成果を上げても幸せにはかなわないと言うことでしょう。更に続き「百幸は一皇にしかず」となります。これは昔の言葉ですので王様や国への感謝の気持ちというところでしょうか。考、行、効、幸とつづき最後の皇を校に置き換えると、愛校心や同窓会のありがたみとも感じられませんか。